

## はじめに

平成26年度は、「青色発光ダイオードの発明」により、ノーベル物理学賞を3名の方が受賞されました。日本人のノーベル物理学賞の受賞は6年ぶりで、科学技術に関する国民の関心が改めて高まった年でした。

また、本県においては、長崎がんばらんば国体、長崎がんばらんば大会が開催され、多くの方々を本県にお迎えしました。当センターでは、炬火用具と採火台のデザイン及び試作を担当し、大会運営の一端を担いました。

平成27年度は、5年間を実施期間とする長崎県総合計画及び長崎県産業振興ビジョンの最終年度となるため、県においては、計画に掲げられている目標の達成に向けて取り組んでいるところです。

また、県内産業界をはじめとする関係者の皆様には、日頃から当センターの事業推進にご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

わが国の陶磁器産業は出荷額が長く低迷していますが、本県では産地企業による新製品開発や関係団体によるブランド力向上の努力により、底打ち感が出て参りました。その一方で、後継者不足などの課題も現れています。

当センターでは、こうした課題に対応するため、製造技術や商品開発に関する研修やセミナーを開催するとともに、県内企業の生産活動や製品開発を支援するために、共同研究やはりつき技術指導により、個別の案件に対する問題解決を支援してまいります。

本報告書は皆様方に当センターの取組を知って頂くために、平成26年度の業務をとりまとめたものです。是非、ご活用いただきますとともに、当センターに気軽にお越しいただければと思います。

平成27年10月

長崎県窯業技術センター 所長 佛田 正博